

## 収穫は地上部倒伏7日後

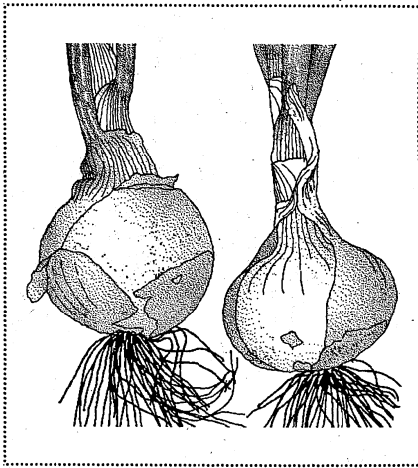
—— 鮫島 國親

栽培しやすく、長期間貯蔵できることから、家庭菜園などで好んで栽培される野菜です。生食（辛みの少ない品種）、いため物、煮物など、和・洋・中華を問わず幅広く利用されています。カリウム、リンを多く含み、ビタミンB1の吸収を助ける働きがあります。

球の肥大は長日で促進されますが、その反応は品種で大きく異なり、極早生種では11時間、10度以上、中晩性種は13時間、15度以上が必要です。今回は早どりおよび普通栽培を紹介します。

生育適温は15～25度、発芽適温は18度です。耐寒性が強く、暖地ではほとんど凍害を受けません。保水性があり、排水のよいほ場が適します。連作障害は少ないですが、苗床は雑草対策を兼ねて夏の間太陽熱消毒をしておきましょう。暖地では極早生～中晩性種を用いた秋まき栽培が多いです。

種まきの適期は9月上旬（早どり）～9月中下旬（普通）です。苗床には、1平方メートル当たり苦土石灰100グラム、堆肥2キロ、化学肥料120グラム（三要素15%の場合）を目安として施します。苗床は床幅1メートルの平うねとします。9センチ間隔に深さ1センチのまき溝をつけ、5～10センチ間隔にすじまき後薄く覆土します。



発芽後は適宜かん水し密な部分は間引きします。育苗日数は50日前後です。苗の大きさは、重さ6グラム、草丈20～25センチ、太さ6ミリを目標とします。本ぼの肥料は1週間くらい前に苗床と同程度の量を施します。栽植密度はうね幅150センチ（床幅110センチ）、株間10センチ、四条植えとします。うね立て後、土壌水分のある状態で黒ポリをマルチします。植え付け深さは3センチくらいです。深植えにならないよう注意しましょう。

タマネギは生育期間が長いです。早どり作型で2～4月、普通作型で5～6月ごろ収穫期となります。収穫の目安は地上部の倒伏が始まってから1週間後です。貯蔵を行う場合は、葉の部分を半分くらい切り、数個ずつ束ねたものを二つ結び、

振り分けて風通しのよい軒下などの竿につるします。 **（鹿児島県農業開発総合センター副所長）**

**平成20年9月11日（木）／南日本新聞**